

10 赤ちゃんの指がドアに触れていないのを確認してから開閉を行っていますか。

赤ちゃんの小さな指はちょっとしたすき間にも簡単に入ってしまう。赤ちゃんをおんぶしているとき、赤ちゃんがドアをいたずらしているのに気づかずドアを閉めてしまったり、開け放しておいたドアが強風で急に閉まって、赤ちゃんの手が挟まれてしまう事故があります。



ドアの開閉をするときは、赤ちゃんの手の位置を確認する。
ドアを開け放すときは、風などで急に閉まらないようにドアクローザー、ドアストッパーなどで固定する。

11 ベビーベッドのさくとマットレスの間にすき間がありませんか。

ベビーベッドのさくとマットレスや敷ふとんの間に、赤ちゃんの頭が入るようなすき間があると、顔が挟まって動けなくなり、窒息する危険があります。すき間ができてしまう場合には使用をやめるか、バスタオルなどを挟み、すき間をなくして使用します。



ベビーベッドはベッドのさくとマットレスや敷ふとんの間にすき間がないか調べて使用する。

乳幼児突然死症候群(SIDS)について

SIDSは、何の予兆や既往歴もないまま乳幼児が死に至る原因のわからない病気で、窒息などの事故とは異なります。SIDSの予防方法は確立していませんが、以下の3つのポイントを守ることにより、SIDSの発症率が低くなるというデータがあります。

1. 1歳になるまでは、寝かせる時はあおむけに寝かせましょう。

2. できるだけ母乳で育てましょう。

3. たばこをやめましょう。

子供の健康相談室(小児救急相談)

子供の健康・救急に関する相談に看護師や保健師等が応じています。また、必要に応じて小児科医師が対応します。

☎ 03(5285)8898

または #8000 (携帯電話、プッシュ回線の固定電話。
ただし、ひかり電話、IP電話からは、つながりません。)

相談日時 ○月曜日から金曜日(休日・年末年始を除く)
午後6時から翌朝8時まで
○土・日・休日・年末年始
午前8時から翌朝8時まで

東京消防庁救急相談センター #7119

急な病気やケガをした場合に、「救急車を呼んだほうがいいのか?」「今すぐ病院に行ったほうがいいのか?」等迷った際の相談窓口です。相談医療チーム(医師、看護師、救急隊経験者等の職員)が対応しています。

☎ #7119 (携帯電話、PHS、プッシュ回線)
(ダイヤル回線からは) 2 3 区: 03-3212-2323
多摩地区: 042-521-2323

相談日時 24時間年中無休

TOKYO子育て情報サービス

妊娠・子育て及び事故防止等に関する情報を24時間、電話(音声自動応答)とインターネットにより提供しています。

☎ 03(3568)3711



TOKYO 子育て情報サービス

検索

または 東京都福祉保健局ホームページ>子供家庭
>子育て支援>TOKYO子育て情報サービス

SIDS(乳幼児突然死症候群)電話相談

SIDSをはじめ、その他の病気・流産・死産・事故などで赤ちゃんを亡くされたご家族の精神的な支援のために、専門職(保健師又は助産師)やピフレンダー(同じ体験をしたご家族)による電話相談を行っています。

☎ 03(5320)4388

相談日時 金曜日(休日・年末年始を除く)
午前10時から午後4時まで

著作・編集: 元国立保健医療科学院生涯保健部 田中哲郎
東京都福祉保健局少子社会対策部家庭支援課
発行: 東京都市長会・東京都町村会
出版承認番号: 30福保総企画第460号



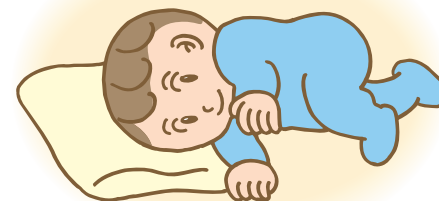
古紙/バルブ配合率70%再生紙を使用しています

平成31年4月

子供に安全をプレゼント

3~4か月児健診用

(3~6か月児対応)



事故防止のポイント

！子供のまわりには危険がいっぱい

周囲のちょっとした気配りで事故の大部分は防げます。

1 ベビー用品は月齢や使用目的に合ったものを選び、取扱説明書をよく読んでいますか。

赤ちゃんが使うものはすべて安全の規格や基準に合っているとは限りません。PSマーク・SGマーク・STマークなど安全マークがついているものでも、使い方や使用月齢が違っていたり、赤ちゃんの体に合っていないと事故は起こります。取扱説明書をよく読み、構造や品質に問題はないかを確認して使用しましょう。



取扱説明書や使用上の注意をよく読み、きちんと守って使用する。ベビー用品はデザインだけではなく、安全性にも目を配る。

2 ベビーベッドのさくはいつも上げていますか。

赤ちゃんの発達は早いので、まだ動けないから大丈夫と思って、ベッドのさくを下げたままミルクを作りに行ったり、おむつを取りに行ったりするのは危険です。赤ちゃんからちょっと目を離したすきに転落事故が起こっています。



ベビーベッドに寝かせるときは、必ずさくを上げておく。

3 テーブル、ソファーなどの上に赤ちゃんを寝かせたまま目を離すことがありますか。

3か月ぐらいになると、赤ちゃんは手足をバタつかせて激しく動き、頭のほうへずり上がったりします。5か月を過ぎると発達が早い赤ちゃんは寝返りをするようになるので、テーブルやソファーなど高いところに赤ちゃんを寝かせるときは、目を離すことができません。



テーブルやソファーなどの高いところに寝かせない。赤ちゃんは動くものだとことを忘れずに。

4 赤ちゃんを抱きながら、熱い食べ物や飲み物を食べたり飲んだり、料理することがありますか。

3か月から5か月にかけて赤ちゃんはこぶしをふるったり、物をつかんだりができるようになります。大人の持っている熱い食べ物、飲み物にも手を伸ばそうとするので、片手で赤ちゃんを抱きながら熱いものを扱うことは危険です。また、抱いている赤ちゃんが動いたり、動かなくても誤ってカップが手から滑り落ちたりしないとは限りません。赤ちゃんの皮膚は成人に比べて薄く、洋服の上からでも容易に深度の深いやけどになってしまいます。



赤ちゃんを抱きながら、熱い物を食べたり飲んだり運んだりしない。

5 赤ちゃんを抱いたり、おぶったりするとき、まわりにぶつくと危険な所がないか確認をしていますか。

赤ちゃんを車に乗せる時、ドアに頭をぶつけてしまったり、抱っこしながら立ちあがろうとして机にぶつけてしまう事故が起きています。赤ちゃんばかり気にかけて、まわりを見ないで行動するのは危険です。



赤ちゃんを抱いたりおぶったりするときは、まわりにぶつくと危険なところがないか、安全を確認してから行動する。

6 タバコや灰皿はいつも赤ちゃんの手の届かない所に置いていますか。

腹ばいになり、好きなおもちゃをつかんで遊べるようになった赤ちゃんは手を口に持っていき、何でも口の中に入れようとします。タバコは2cm以上飲み込むと、時には命にかかわるといわれています。口に入れると危険なタバコが赤ちゃんの手に届く場所がないか、いつも気を付けておく必要があります。



タバコや灰皿は手の届かないところに置く。ジュースやビールなどの缶を灰皿代わりにしない。

7 自動車に乗るとき、チャイルドシートを後部座席に取り付けて使用していますか。

赤ちゃんを抱っこして車に乗るのは危険です。車が衝突すると腕から飛び出し、顔や頭をシートやダッシュボードにぶつけて、事故の衝撃をまともに受けてしまいます。また、エアバッグ付きの車の助手席にチャイルドシートを取り付けるのは、衝突によってエアバッグが作動すると押しつぶされるので危険です。



車に乗せるときは年齢に合ったチャイルドシートを後部座席に正しく取り付けて使用する。

8 赤ちゃんを抱いているとき、自分の足元に注意していますか。

今まで簡単に通れていた所でも赤ちゃんを抱いているときは足元が見にくいので、めくれたカーペットや、ちょっとした段差にもつまずいてしまいがちです。赤ちゃんを抱いたまま転倒すると、体が押しつぶしてしまったり、テーブルや家具にぶつけてしまうので注意が必要です。



赤ちゃんを抱いているときは、自分の足元に十分注意を払う。

9 赤ちゃんの腕を、強く引っ張ることがありますか。

赤ちゃんの体は完全にできあがっていないので、ちょっと腕をひっぱった程度でも脱臼や骨折をしてしまうことがあります。脱臼や骨折は癖になりやすいので、赤ちゃんの腕を引くときは、急に引っ張ったり、強くなりすぎたりしないように普段から注意が必要です。



赤ちゃんの腕を引くときは強くなりすぎないようにする。